

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372801045		
法人名	社会福祉法人 綾友会		
事業所名	グループホーム 桜の丘		
所在地	熊本県上益城郡甲佐町西寒野1151-2		
自己評価作成日	平成31年1月11日	評価結果市町村受理日	平成31年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成31年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の状態の変化に速やかに対応できるように協力医療期間との連携もあり、安心して暮らして頂けるホームである。
木造平屋作りのホームで、ゆったりとした造りで、広いリビングがあり、ガラス戸越し、テラス、庭へと続き開放感がある。すぐそばの花壇や菜園により季節を感じられるように努めている。気候の良い季節にはドライブを計画しホーム外での楽しみを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

庭の梅や桜の開花、菜園でほこる野菜など季節を間近に感じながら過ごすことのできるホームは、入居者に寄り添いながら大切なひと時を過ごしてもらうよう、職員自身が笑顔とゆとりを持って業務にあたっている。旬を活かした日々の料理や、1・15日の赤飯の日、誕生会など工夫された行事食の提供をはじめ、開放的なリビング食堂にあるオープンキッチンからの音や匂い、入居者と職員が共に集う食卓が更に食事を楽しみなものになっている。入居者もささがきや里芋の皮むき、菜園で収穫したばかりの小ねぎを切りそろえる方、丁寧に洗濯ものをたたむ方など、様々な出番が用意されていることも入居者の生活に活気をもたらしている。開設時からの目的の一つである地域との関係作りには視点を置き、地域の人々の力を借りながら運営を展開しており、今後も地域のホームとして、新たに年月を重ねていか

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	桜の丘の基本理念を念頭に、毎朝、申し送り簿(日誌)に行動指針の項目を一つを挙げ目標とし、実践につなげている。	グループホーム桜の丘の理念とともに、法人160名の行動規範となる12項目の指針を、毎朝礼で一つあげその日の目標としている。新年度を前に職員は新しい指針のカードを手にする事で、心新たに業務につくよう心掛けている。また、上、下半期にホームで掲げる部署目標には、勤務体制や業務の見直しを盛り込んでいる。	長年にわたる入居者と職員の関係は言葉のやり取りや互いのしぐさからも伝わり、家族の安心するところともなっている。今後も理念に沿った取組に期待がもたれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の祭りに出かけたり、高校の体育祭、文化祭に出かけ交流をしている。食材の買出しも入居者と出かけ挨拶を交わしている。	開設時からの目的の一つである地域との関係作りに視点を置き、地元物産の活用や、町内業者による納品は先の熊本地震直後もレトルト食品を使うことなく急場をしのいだり、法人による仮設団地での食堂の開催などに繋がっている。恒例となった12月の高校生との交流会では、大掃除の後に生徒や家族を交えておでん会が開かれ、ナイスライや実習生の受け入れを継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門学校生の実習や中学生、高校生の福祉体験を実習受け入れを行った。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、区長、老人会長、家族代表者、行政、入居者代表と施設職員メンバーで、入居状況、行事報告を行っている。区長から祭りの案内を受け出かけている。	法人の地域密着型施設との合同会議となっており、各地区の代表者が多数参加し、地域色豊かな会議となっている。スライドを使った行事画像の紹介や、入居者の現状を伝えながら2か月ごとのホームの取組を発信している。意見交換会では各自治区の高齢者の現状や、行事案内、危険箇所への対策など行政への要望なども出され、地域と一体となった話し合いの場となっている。	会場を法人施設としているため、毎回でなくとも参加者がホームに立ち寄る機会を作ったり、法人全体で中・高校の職場体験を受けており、学校関係者への会議への参加を打診いただきたい。また、引き続き家族への参加の呼びかけを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新の申請時には、入居者と一緒に出かけホームの様子を伝えている。	行政担当者の運営推進会議への参加により、ホームの現状を共有し、合わせて出された地域情報を参加者が共に検討する場となり、行政との有意義な時間となっている。本年度は県や町村単位で外部研修の機会が多く、職員は努めて研修に参加し、ホーム内のケア統一に努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、出かけていかれる方には、見守りや付き添いにて対応している。本体施設の身体拘束廃止委員会に参加して身体拘束『0』を維持出来るように努めている。	内外の研修を通じ、身体拘束や虐待が入居者に及ぼす影響について考える機会をもっている。また、法人全体の総意としてそれらを行わないケアの実践に取り組んでいる。ホーム長はストレスチェックや日常の職員との会話を通じ、ストレスをため込まないように心を配っている。ホール内は入居者の歌声に身体を動かしながら、手際よく調理する職員や会話を楽しむ姿が見られ、入居者と職員の日々の関りが推察された。	センサーマットについては数名の方が利用されているが、目的や使用方法を説明しており、継続した支援を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年、熊本での事故があり、スタッフ間で話すことも多くあった。高齢者虐待防止法について、スタッフ会議にて全員で確認した。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要と思われる方は現在、対象者はいない。今後必要時は、本体施設の社会福祉士に相談し、さらに地域包括センターに相談を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、家族連絡後ホームにて重要事項説明後契約を行っている。解約時には、退去後の支援について話を行い、家族の不安を解消出来るように努めている。改定の際は、家族会や面会時に説明を行い、理解を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には入居者の様子を伝えて、話しやすい雰囲気を作っている。	入居者とは一日の中にゆっくり関わる時間を持つように心がけており、特に食事や入浴中に意見や要望を口にされるようである。家族の面会時にはホールや居室で入居者とのひと時を過ごしてもらうよう働きかけ、様子を見ながら意見を聞き取り、運営に反映させている。	家族へのアンケートを検討したいとしており、今後質問内容などを話し合い、実現されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	企画管理委員会(月1回)、運営推進会議(2ヶ月に1回)を行い、意見や提案を聞いている。	職員の離職が殆どなく、法人異動の際にも馴染みの関係継続を重視し、グループホーム職員の異動をなるべく避ける様工夫されている。法人の企画管理委員会(毎月開催)にあげた勤務の見直しは、職員意見をもとに取り組んでおり、夜勤時間の短縮などの検討が行われている。朝のミーティングは母体施設と合同で行われ、他部署の情報を共有し、連携強化に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度を導入している。各自が自らの力を発揮し、成長を実感できるように支援し、職員面接を年2回実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の職責に応じた研修会を実施、月次研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内や郡内の同業者の会議に参加するように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	6月に新規の入居1名あり、本人が言葉での意思表示が難しい為、安心して暮らせる様にその都度対応している。家族や、入居前の施設職員に情報提供を依頼して、安心して暮らせる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後家族に連絡や面談し、御家族の意見を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプランを作成して、家族の同意を得ている。又、状態の経過を見ながらプランを変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般を入居者に声掛けし、一緒に行っている。個々に出来る事や得意なことを依頼し、一緒に行っている。畑の草取りや収穫を一緒に行った。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	翌月の園外行事を、毎月知らせ、行事に参加される家族もおられる。敬老会や交流会など御家族と一緒に食事をとれるような内容にし、実施日も御家族の要望を聞きながら計画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の祭りに参加して、交流を図っている。ドライブや買い物帰りに、近隣へ立ち寄りしている。	玄関のドアは夜間を除きオープンにしており、入居者は馴染みの畑に食材を取り出したり、季節野菜を育てながら日光干しや漬物にして保存食作りにも取り組んでいる。運営推進会議などで地域行事をリサーチし、馴染みの祭りや買い物、散髪に出かけ、法人でのボランティア行事へお隣さんとして車や徒歩で出かけている。家族や親戚が集まる田植えや稲刈りに合わせ自宅に帰る方など、思い入れのある家族行事に参加する方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ地区の出身の方など同じ町内なので、お互いに話しやすく和やかな雰囲気でお互い話されている。外出や散歩では、車椅子を押して頂いたり、話し相手になられたりされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本年度1名の退居があり、本体施設に入居された。退居後も本体に行った際は面会に行ったりした。御家族も落ち着かれるまでは相談、支援行い意見などは本体と連絡取り合った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、思いや意向を聞いたり、聞くことが困難な場合には表情や行動で察しながら出来るだけ意向に沿えるようにしている。	職員は入居者の思いを普段の会話から汲み取り、支援に反映させている。異動の無い職員体制が馴染みの関係を作っており、食事をしながら、洗濯をたたみながらと、自然な流れで入居者の本音を見出すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規入居の際、前の施設からの情報や病院、御家族等の情報をとり把握している。スタッフ間で情報を共有出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	総合記録シートや申し送り時を活用し現状の把握に努めている。又、スタッフ会議時には一ヶ月内のケア変更事項を中心に再度情報を確認し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や家族の訪問時に意見を聞いたり、必要時は管理栄養士、PTなど専門家に意見を聞いている。	本人・家族の意向を優先し、カンファレンスでの職員意見や必要によって法人の専門職(理学療法士・栄養士・看護師)などの意見を仰ぎながらプランを立案している。ホーム生活が長くなられた方への安定した生活支援や、入居間もない方へのアセスメント情報や、様子から安心して過ごせる人や場所の提供を盛り込んでいる。本人が出来ることで自信を持ち、家族との面会に外出するなど現状を見極めた内容としている。定期的な評価や継続、見直しの検討によりずれが生じないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録シートに日々の様子などを記入し、職員間で共有している。ケアの変更必要時は総合記録シートと日誌に記入し把握しプラン作成時に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や買い物などで出かけた際は自宅に立ち寄り、近隣をドライブしたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本体施設よりリフトカーを借用して全員で出かけている。地元住民の協力で祭りを楽しまれている。また、甲佐高校生との交流会や食事会を実施した。必要に応じて、併設施設のPTや管理栄養士、協力病院のPTIに助言、指導を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に受診している。又、月に一度精神科医の往診を受けている方もいる。変化があれば、主治医、御家族に相談し、必要な病院への受診の支援をしている。	本人・家族の希望するかかりつけ医により定期的に訪問や受診による支援が行われている。また、気になることがあれば早めの受診に努めている。健康状態は家族とも共有しており、相談事項に応じながら適切な医療支援に努めている。口腔ケアも重要な健康支援と捉え、訪問歯科や歯科医、衛生士より歯磨きの指導を受けており、起床時も含め、毎日4回の歯磨きや個々に応じた義歯管理が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化や総合記録シートの中から変化が確認できた場合は看護師に伝え、必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活情報を伝える。病院の連携室と情報交換や、面会に行き、病棟NS、必要時にはDr.より説明を受け、安心して退院できるように連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、ターミナル期の方1名対応中。重症化しホームでの対応が難しくなった場合に、家族と話し合いを行い、納得して今後の方針を決定している。	入居時に重度化・終末期支援に取り組んでいることを説明し、その時点での家族の気持ちを書面に残している。また、家族の思いは変化するものであり、変更しても構わないことや、入浴が一般的な浴槽であることから、その時々で検討していくことを申し添えている。家族の中には特養施設を申し込まれている方もおられる。終末期支援に関しては、法人内研修やホーム内でも、定期的を開催し、職員のメンタル面にも配慮しながら本人・家族の思いに応える支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や勉強会を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合防災訓練、毎週日曜日には消防団の見回りがある。現在不定期でしか行っていないが、月1度の部署内の防災訓練を行って防災意識を高めていきたい。	今年度も2回、昼・夜を想定して総合訓練を実施している。地域消防団との連携としては、どんどやへの参加、毎週日曜日の見回りや年末夜警など心強い協力が得られている。今後は、部署内の防災訓練を定期的実施し、防災への意識を更に高めたいとしている。	先般の熊本地震発生では、交流のある地元業者により通常と変わらぬ食事提供が行われたことに施設長は当時に振り返り感謝を語っている。今後も火災・自然災害への対策へ、地域や法人との連携を図りながら、有事に備えていかれる事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	礼節と尊厳を持って対応するよう心がけている。特に入浴時、排泄時には羞恥心に充分配慮している。	理念や行動指針を共有し、入居者の尊厳に配慮した対応に努めている。呼称は苗字や女性の方には下の名など、これまでの呼ばれ方や家族からの情報をもとに対応している。身だしなみやおしゃれの支援については、家族の協力も得ながら好みや季節に応じた衣服の着用ができるようにしている。広報誌など個人情報については、家族の了承を得て使用しており、施設長は職員の守秘義務や昨今のSNS発信などについても指導を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人の意向や思いをくみ取るよう努めている。特に食べ物や飲み物は嗜好に合わせ本人の意思の確認や、選択してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を尊重し、確認しながら一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出時は、職員が共に洋服を選び、おしゃれができるように支援している。衣類など不足あった場合は御家族に連絡し補充している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳、片付けは職員と共に行っている。又、菜園の収穫で季節の野菜を美味しく食べている。一人ひとりの能力に合わせて手伝いの依頼を行うようにしている。	献立は職員が季節や入居者の要望も聞きながら作成している。比較的肉料理を好まれる方も多いようである。また、1・15日の赤飯やお節、ひな祭りなどの行事食、おでんやジャンボかき氷パーティなど、工夫された行事食は入居者の楽しみになっている。入居者も野菜の収穫や牛蒡のさがき、里芋の皮むきなどの野菜の下ごしらえ、冷凍保存用も兼ねた沢山の小葱を切られる方など、入居者に出る出番が支援されている。職員も同じものを一緒に食べる事で思いを共有しており、会話の弾む楽しい食事時間であった。	食事記録簿には味や量など職員の忌憚のないコメントが記され、ホームの雰囲気伝わってくる。今後も入居者の楽しみとなる食事提供を継続していきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい形態での提供や好まれる物の提供、補食、水分摂取に努め、体重増減にも充分注意している。総合記録シートに個々の一日目標水分量を記入し、摂取できるように促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。出来るだけご自分で磨いていただき、不足部分や仕上げは緯線している。協力歯科医院より訪問あり、磨き方など個別指導を受けいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のトイレサインをスタッフ間で情報共有し出来る限りトイレでの排泄を支援している。訴えが少ない方に関しては、排泄の間隔が長くなるように確認を行っている。必要時にはパットの種類の検討をして対応している。	職員は排泄間隔や適切なパットの種類、組み合わせなどを全職員で共有し、一人ひとりに応じたトイレでの排泄支援に努めている。夜間は安眠も考慮し、紙パンツの方が増えるが、日中は半数以上の方が布パンツで過ごされている。居室が3コーナーに配置され、それぞれにトイレが備わっており、入居者は居室の近くが使い慣れた場所になっているようである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養課や他部署と連携し食物繊維やオリゴ糖などを個々の症状にあわせ取り入れている。必要時毎月ある排泄ケア委員会で検討しアドバイスもらう。現在、刺激性下剤使用者なし。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や体調に合わせて入浴を勧めている。拒否のある方には、時間をずらしたり、職員を交代して入浴していただいている。	入浴は職員と入居者が1対1で関われる機会であり、基本的に週2回、午後からゆっくりと入ってもらえるようにしている。中には、時間を掛けない入浴を好まれる方もあり、本人の意向を尊重し短時間でシャンプーや洗浄に努めている。シャンプーなどはホームで準備しているが、中には保湿剤も含め好みものを個人で準備されている方もおられる。季節の菖蒲や柚子湯も継続して取り入れており、全員が楽しめるよう数日間実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はお手伝いや運動などで活動していた夜間には入眠できるようにしている。また、本人が望まれる場合には夜間に影響しない程度に日中も休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服用されている薬の勉強会を行い、副作用等について理解するように努めている。内服の変更があれば口答以外にも申し送り日誌と総合記録シートに記入し確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が昔していた事や興味のあることなどを、日ののお手伝いやレクリエーション活動につなげ、張りのある生活が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関には施錠はせず出かけられる方には見守りを行い、様子を見て声掛けをして気分転換を図るように努めている。気候が良い時には月2回の外出行事を計画したり、買い物に同行していただいている。ふるさと訪問も御家族と相談し実施した。	ホーム敷地内は樹木や草花の開花、菜園など季節を楽しめる環境にあり、入居者は天候を見ながら散歩や散策を楽しんでいる。自然豊かな環境であり、職員は蜂など入居者に危険を及ぼす生物に対しても十分に注意を払い取り組んでいる。野菜の収穫も戸外に出る機会であり、訪問当日も汁物などに使う小ねぎを手際よく収穫されている日常の光景を見る事が出来た。気候の良い時期(4月～11月位)は、法人の車両も使用しながら紅葉見学、買い物・外食ツアーやワックスがけの日を利用したカラオケ外出なども継続して取り組んでいる。	本体施設で行われるボランティア訪問などのイベントにも、個々の体調に応じ歩きや車で移動し、交流を楽しんでいる。ふるさと訪問をはじめ家族の協力を得た外出も実施されており、今後も庭先やテラスでの外気浴も含め、家族や地域の協力を得ながら入居者が戸外に出る機会を継続いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	オヤツや食材の買出しに職員とショッピング楽しまれている。財布を渡しレジの支払いをお願いする時もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があると話して頂き、手紙や贈り物が届くと本人に渡し、家族へ連絡して話をいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はゆったりした空間が広がり、リビングの大きな窓ガラスからは外の風景が見られ開放感を感じられる。外出の後にはその時の記念写真を飾ったりしている。	開放感のあるリビング食堂は、食事を摂るスペースやテレビ視聴・談笑のできるソファコーナー、畳の間などゆとりの空間である。オープンな台所が間近にあることで、音や匂いが食欲や入居者と職員の会話のきっかけにも繋がっている。玄関先やホーム内には季節や地元特産の花(ガーベラ)が飾られ、入居者に限らず来訪者の目も楽しませている。方言を交えながら笑顔で入居者の思いを引き出そうとする職員自身の姿勢も、居心地の良さに繋がっている。	圧迫感のないゆとりの広さのリビングホールであり、今後は雛飾りにおいては、内裏雛だけではなく段飾りとして設置することで、より入居者が季節や雰囲気を楽しめることと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや庭、テラスなど好みの場所でそれぞれの時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が使い慣れた家具などを持ち込まれたり、配置を考えられる。	居心地よく過ごせる居室となるよう、入居の際に、馴染みの品の持ち込み品について説明をおこなっている。洗面台も配置された居室には、タンスや椅子などの家具をはじめ、使いやすい寝具、着慣れた衣類、小物などが持ち込まれており、入居後も身体状況に応じて物品の配置などを検討している。夜間の就寝に限らず、午睡をされる方もあり、職員はいつでもゆっくりベッドに入れるよう、布団を整えたり温湿度に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台は居室と共有スペースにある。畳間やソファ、長テーブルの椅子、食堂の椅子など、出来るだけ自分で立ったり、座ったり出来るような作りとなっている。		